

第1章 復旧活動の実績と課題2 ～寺宝・文化財等への対応～

第1節 寺宝・文化財等、緊急措置が必要な被災物品の把握と対応の決定

寺宝・文化財への対応については、今後、最も改善すべき点が多い項目の一つである。平成・令和の豪雨災害においては、江戸時代に作成された法華経・仁王護国般若波羅蜜多経・巡礼絵馬など、数多くの寺宝・文化財が被災した。

これらの教訓から、文化財の普段の保管場所や、被災時の避難場所、被災状況の確認とその後の対応について、詳細に制度化し、迅速な復旧を実施する必要がある。



巡礼絵馬被災状況



経典類被災状況

第2節 平成・令和の豪雨災害における活動実績

第1 令和6年7月25日

日付	時刻	箇所	人数	道具	内容・詳細
7月30日	—	経典	3人	不明	山形文化遺産防災ネットワーク
8月5日	8:26	経典	天台宗3名	ブルーシート	被災した経典を広げる
8月5日	19:45	経典	天台宗3名	ブルーシート	被災した経典を広げる。
10月12日 ～14日	終日	経典	副住職	カメラ・ハケ・消毒用エタノール	内容は下記に記載



8月5日：緊急対応



8月5日：緊急対応後

第3節 活動実績の検証 ～成果・課題・今後の方針～

第1 保管場所の適切な設定

成果:寺宝である大般若経の半分は、資料館に保管していたため、被災を免れることができた。

課題:大般若経の半分は、本堂脇の書庫に保管しており被災した。カビが生え虫食いもひどく、修繕不可能であり、廃棄せざるを得なかった。無念極まりない。歴史的・文化的に価値のある寺宝・文化財は、水害に遭わない高位置の場所に保管して置くなど、抜本的な改善の必要性を感じた。

方針:今後は、寺宝・文化財については、観音堂脇資料館など、保管場所の根本的な見直しを実施したい。

第2 開始時期・日程等

成果:令和の豪雨災害においては、文化財の被災を確認し、山形文化遺産防災ネットワークや天台宗の諸先輩方・ご信徒の方々から協力いただき、応急修繕を実施できた。

課題:平成の豪雨災害時の復旧作業においては、生活再建に重点を置くあまり、文化財への対応が遅延してしまった。

令和の豪雨災害においては、文化財の被災状況はある程度把握できたものの、応急修繕や復旧・復興に主体的に繋げることができなかつた。山形文化遺産防災ネットワークや天台宗の諸先輩方・ご信徒から、ご対応・ご助言いただいた。寺院としての主体的な対応はできなかつた。

方針:今後は、初動において寺宝・文化財の被災状況の把握を実施し、迅速な復旧・復興を心がけたい。

第3 順序・箇所・内容

成果:無し。

課題:寺宝・文化財の被災状況確認を、初動体制の中に組み込んでいなかったため、対応が遅れてしまった。

また、寺院・境内に点在する寺宝・文化財の点検順序・内容等が未設定であったため、場当たりの対応となってしまった。

方針:今後は、点検箇所・順序・内容・被災状況への対応を整備し、迅速な復旧・復興を心がけたい。

第4 担当者の設定

成果:無し。

課題:平成・令和の豪雨災害時に、担当者が未設定であったため、対応が遅れてしまった。

方針:今後は、寺宝・文化財の担当者を設定し、迅速な対応を心がけていく。

第5 専門家との連携

成果:令和6年の豪雨災害においては、山形文化遺産防災ネットワークや天台宗の諸先輩方・ご信徒と連携を図り、ある程度、被災した寺宝・文化財に対応することが出来た。

課題:庭月観音としては、山形文化遺産防災ネットワークなどの各団体の存在を知らなかったため、主体的・迅速な働きかけを行うことが出来なかった。

方針:文化財保護の**専門家を事前に把握し、被災・復旧作業のため連携**を実施させていただきたい。

第6 応急処置及び清掃道具

成果:令和6年度の豪雨災害では、山形文化遺産防災ネットワークや天台宗の諸先輩方・ご信徒の御力により、応急処置を実施することが出来た。その経過を、下記の通りまとめたい。

写真No	日時	実施者	概要	内容・詳細
1	7月30日	山形文化遺産防災ネットワーク	消毒	被災した経典を消毒いただいた。
2	8月5日	天台宗の先輩	経典を広げる	被災した経典を、可能な限り広げていただいた。
3	～ 10月12日	副住職	情報収集	インターネットで情報収集し、応急処置や清掃方法、必要物品等を精査
4	10月12日 ～ 10月14日	副住職	写真撮影	作業前に、被災した全経典の現状を写真撮影
5			未展開の経典への判断	浸水後、閉じたままの経典について、現状維持か展開か、対応を判断
6			経典を展開	閉じたままの経典を、可能な限り広げる。困難な場合は、現状維持
7			清掃	経典に付着した埃・泥類を巾で払う
8			消毒	濃度75%消毒用エタノールを噴射
9			乾燥	1日放置して乾燥。大型扇風機2台を稼働し、室内の空気を循環させる
10			写真撮影	清掃・消毒作業後の経典を、撮影
11			収納・保管	経典が乾燥後、丁寧に折り畳み1巻ごとに半紙で包む。それらをプラスチックケースに収納。除湿剤と防虫剤を同封。直射日光の当たらない低温な場所で保管

課題:**専門的な知識**が不足しており、適切な対応が出来なかった。事前の準備体制が確立されていなかった。

方針:今後は、**被災した寺宝・文化財の処置や必要な道具類を事前に準備**し、適切な対応を心がけたい。



写真 2

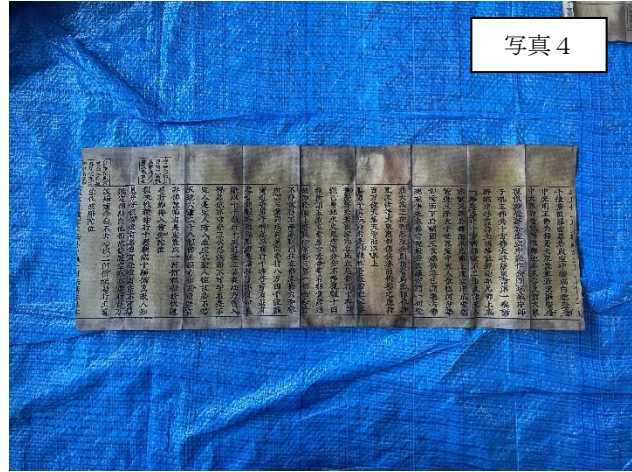


写真 4



写真 7・8



写真 9



写真 11

第7 被災した寺宝・文化財の本格復旧・修繕

成果：無し

課題：平成・令和の豪雨災害において、巡礼絵馬が被災した。その後、生活再建や寺院復旧、陳情活動、経常法務に忙殺される中で、巡礼絵馬の復旧や本格修繕に向けた方針を打ち出すことが出来なかった。力不足を明確に認識しており、慚愧の念に堪えない。

また、生活再建及び寺院屋体の修繕・復旧が優先されるなか、寺宝・文化財の復旧については多額の費用が必要であることが想定された。これが、寺宝・文化財の復旧・修繕が、後回しになったことであることの原因でもある。

方針：寺宝・文化財の品目に適合した専門家を洗い出し、復旧・修繕対応に助言を頂くよう努めていく。

併せて、修繕・復旧の際の資金調達についても検証していく。

第8 総括

- 1 寺宝・文化財の品目・数量をリスト化し、重要度や保護レベルを設定する。
- 2 寺宝・文化財の保管場所の再設定を行う。
- 3 被災時における寺宝・文化財の確認順序・箇所・内容及び項目を設定する。
- 4 被災時における寺宝・文化財の確認担当者を設定する。
- 5 寺宝・文化財が被災した際の相談先（専門家）を事前に設定する。
- 6 被災した寺宝・文化財の応急処置方法を確立する。
- 7 被災直後において、被災状況の確認の際、必ず寺宝・文化財の被災状況確認を実施する。
- 8 被災した寺宝・文化財の復旧計画（相談先／専門家、資金調達方法）を策定する。